

- 1 主題名 謙虚に他に学ぶ
- 2 ねらい 個性とは何かについて正しく理解するとともに、多様な考え方を基に多面的・多角的に捉え直す活動を通して、立場の違う考えを尊重し受け入れることの大切さを理解し、寛容な心や謙虚な態度を育てる。

教材名 「入試の朝」（出典：「彩の国の道徳」（中学校）『自分を見つめて』県教委）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

人は誰もひとりで生きていくことはできず、明るい人生を送るためには他者とより良い関係を築いていくことが求められる。そのためには様々な物事について自分の考えや意見を適切に発信していくことが肝要となる。しかし、人間は多くの物事において、その全体を知り尽くすことは難しく、自分なりの角度や視点から物事を見ることが多い。とりわけ中学生の時期においてはその傾向は強く見られる。そこで大切になることは、それぞれの物の見方や考え方の個性を認め合い、尊重できるということである。自分の物の見方や考え方を広げられるように、謙虚に他者から学ぶことによって、寛容な心を育むことで自己を高めることができる。

指導に当たっては、社会生活を送る上で広い視野に立って様々なものの見方や考え方をもち、その上で適切に考えや意見を伝えられることの大切さについての自覚を促していく。同じ空間にいる人でも、それぞれ性格や価値観、立場等は異なるため、考えていることは様々である。そのため、自分の気持ちを大切にすると共に、他者の立場を考え、その上でどのように判断し行動することが大切かについて考えを深めさせていきたい。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

第1学年では相互理解の活動として友達との「いいところ探し」を行い、自分の気持ちを相手に伝えるとともに、相手からも自分について伝えてもらうことで「互いにより良い関係を築こうとする意欲」を育ててきた。第2学年では「一番乗りたけいち」を教材とし、「他の人がもつ自分にはない良さを認め、広い心で謙虚に学ぼうとする態度」を学習してきた。

第3学年としては、多くの生徒が学年が上がるにつれて成長し、相手のことを思いやりながら集団生活を送れる生徒が増えてきた。しかし、一方で突発的なトラブルが起きた際に、自分のことを優先するあまり他者の迷惑になる行為や発言をしてしまう場面も見られる。自分が正しいと信じて疑わないことから、大きなトラブルへと発展してしまうこともある。そのため、本活動を通して相互理解の大切さ、謙虚な姿勢で他に学び寛容な心をもつことで、明るい生活を送ることができるということについて考えさせたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は入試当日の朝、主人公の「ぼく」が同じ電車に居合わせた4人組の態度にストレスを感じるものの、車掌さんの対応に感銘を受け、謙虚に他に学び寛容な心をもつことの大切さについて自覚していく様子が描かれている。

この教材を通して、主人公の心の内を考えるとともに、本文では描かれていない車掌さんの気持ちも考えることで、自分のことと共に相手の立場を思いやり、相互理解と寛容な心をもつことの大切さについて考えさせたい。

そのために、本時の活動では、以下の4つの場面を中心に、ねらいに迫っていく。

- ①電車で勉強に集中したいものの、にぎやかな乗客にストレスを感じていることに着目させる。
- ②主人公が車掌さんをお願いをした場面で、車掌さんの立場や取るべき行為について着目させ考えさせる。
- ③車掌さんの行為により自分を恥ずかしく思う場面で、「ぼく」と車掌さんとの違いに着目させ考えさせる。
- ④「ぼく」がこの体験を通して学んだことはどのようなことか考えさせ、謙虚に他者に学び、相手を思いやり寛容の心をもつことの大切さについて理解を深めさせる。

以上のことから、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 アンケート結果をもとに様々なものの見方や考え方があることに気付く。	思い通りにいかない時に、どんな心をもつことが大切だろう	<ul style="list-style-type: none"> ・コの字隊形で授業をはじめ。 ・教材の内容に興味や関心を持たせ、ねらいを捉えさせる。
展開	2 教材を読み話し合う (教材前半部分を読む) (1) 大声で話している4人組に対して、「ぼく」はどのような気持ちになったのだろう。 (補助発問) 「ぼく」の気持ちについてどう思いますか。 (2) 「ぼく」に依頼された車掌さんの気持ちと、その後の行動を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・早く降りないかな。 ・誰か注意してくれないかな。 ・集中できない。 ・勉強に集中できないのは困るから共感できる。 ・共感できないわけではないが、4人組は悪いことをしているわけではないので仕方ない。 ・何とかしてあげたい。 ・難しい話だ。 ・4人組に静かにしてもらおう。 ・「ぼく」を別の車両へ案内する 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の考え方や心の動きに着目させる。 ・主人公の心情を捉えるとともに、その心情に対して自分はどう思うか考えさせる。 ・乗客からの依頼を受けた車掌の立場を踏まえて、その心情とその後の行為を考えさせる。

	<p>(教材後半部分を読む)</p> <p>(3) 「ぼく」が「何とも言えない恥ずかしい気持ち」になったのはなぜだろう。</p> <p>(4) 「ぼく」はこの体験を通してどのようなことを学んだのだろう。</p> <p>3 本時の学習課題を再度確認し、活動を通して気づいたことや考えたことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ぼく」は自分のことばかり考えていたから。 ・ 車掌さんは全ての乗客のことを考えて対応してくれたから。 ・ 相手のことを思いやる大切さ。 ・ 広い心をもって考え行動していくことの素晴らしさ。 ・ 他者から学ぼうとする姿勢。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣同士2人組で話し合う。 ・ 自分のことしか考えていない「ぼく」と、車掌さんとの違いに気付かせる。 ・ 4人組で話し合う。 ・ 本時のねらいに迫ることができる話し合いになるように適宜助言をする。 <p>☆様々な立場の人の心の内について、友達の多様な意見を踏まえながら考えている。</p> <p>☆これまでの体験を想起しながら相互理解、謙虚に他者から学ぶ姿勢、寛容の心について考えを深めている。</p>
終末	4 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の心にやわらかく届くように余韻を残す。

5 他の教育活動等との関連

事前指導	帰りの会でアンケートを実施し、「相互理解や寛容な心」について生徒の実態を把握する。
道徳科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材名「入試の朝」 立場の違う考えを尊重し受け入れることの大切さを理解し、寛容な心や謙虚な態度を育てる。
事後指導	帰りの会で「私たちの道徳」のP.76『人物探訪』を読み、偉人から学ぶ姿勢を育む。
家庭との連携	本時の授業内容や生徒の感想を学級通信で紹介し、家庭でも謙虚に他者に学び寛容な心をもつことについて話題にしよう。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・ 自分と車掌との違いに気づき変容する主人公の心の内を様々な視点から捉え考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・ 謙虚な心で他者に学び、寛容な心をもつことの意義について自分との関わりで考えている。

「入試の朝」

思い通りにいかない時に、どんな心をもつことが大切だろう

ぼく



- ・早く降りてくれないかな
- ・静かにしてもらおうようにお願いしようかな。
- ・誰か注意してくれないかな。

- ・勉強に集中できないのは困るから共感できる。
- ・迷惑だけどころこういうこともあるので仕方ない。

車掌

- ・難しい話だなあ。
- ・何とかしてあげたい。



恥ずかしい気持ちがあがってくる

- ・難しいので「ぼく」に我慢をしてもらおう
- ・4人組に事情を説明して静かにしてもらおう。



「ぼく」が学んだこと

- ・自分の事ばかり考えていた
- ・車掌さんのことまで悪く思っていた
- ・車掌さんは全ての乗客のことを考えていた

- ・相手を思いやることの大切さ

- ・他者から学ぼうとする姿勢

- ・広い心を持ち行動することの素晴らしさ

(生徒の感想)

(生徒の感想)

(教師の話) 謙虚な心

入試の朝

★ 「ぼく」はこの体験を通してどのようなことを学んだのだろう。

自分の考え

話し合いを通して

★ 今日の授業を通して学んだことを、自分の体験をふり振り返りながらまとめましょう。

.....

.....

.....

.....

.....



3年 組 氏名